

成育・女性医療部門

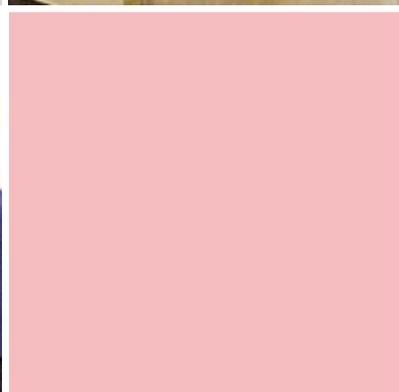
19 小児科

20 産婦人科

19

成育・女性医療部門

小児科



●すべての領域の専門家がそろっています。

当科は免疫・アレルギー、血液・悪性腫瘍、内分泌・代謝、神経・発達、未熟児・新生児、腎臓の専門家を擁し、小児医療のすべての専門分野で最新の医療を研修できます。

日本小児科学会認定教育施設、

日本アレルギー学会認定教育施設、

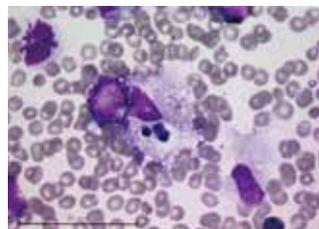
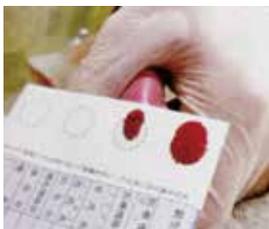
日本周産期新生児医学会認定基幹研修施設

日本小児神経学会小児神経専門医研修施設

小児血液・がん専門医研修施設

日本さい帯血バンクネットワーク登録移植医療機関診療科

骨髄移植推進財団（日本骨髄バンク）非血縁者間骨髄移植認定診療科
でもあります。



●マンツーマンの指導を行います。

卒後初期臨床研修終了後の小児科専門医研修は大学病院での勤務（医員）および関連病院での勤務をとおして行います。

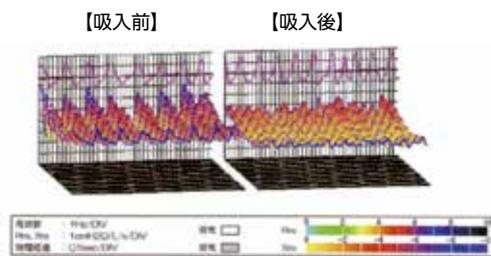
大学病院小児科での研修は、小児科の各専門領域（上記）の診療及び小児科総合診療を学びます。

少しでも多くの種類の症例が経験でき、各指導医の専門性を生かした様々な診療技術を数多く修得できるようにするため、指導医と研修医師の組み合わせを変えるローテーションを組んでいます。



●研究にも力を入れています。

小児アレルギー疾患、原発性免疫不全症、小児膠原病の病因・病態の解明と新しい治療法の開発や代謝疾患の生化学診断に関する研究、新生児マススクリーニングによる早期発見・早期治療、造血幹細胞移植、遺伝子診断や治療効果の評価、病的未熟児・新生児の障害無き発育の追求、てんかん、脳性麻痺、発達障がいや学習障害などの診療と治療法の開発など、あらゆる領域の研究においてすぐれた成果をあげています。



強制オシレーション法 気管支喘息吸入前後の比較

●関連病院も充実しています。

県内、県外に教育と診療に実績のある関連病院が多数あります。

関連病院での研修は指導医と複数の小児科医がスタッフとして勤務している市中病院で、大学病院では経験することが少ない疾患について指導医のもと研修することになります。

関連病院での勤務は各自の希望をもとに研修機会が均等になるように考慮した上で決定しています。

19 小児科

科 長 (研修統括者)

大嶋 勇成 (おおしま ゆうせい)
 出身大学 京都大学 (昭和60年卒)
 専門分野 免疫・アレルギー

教室の内容 と特色

小児科医は“次世代を担う子どもたちの生命・健康を守る”という重要な使命を帯びており、多数ある医学分野のなかでも本当にやりがいのある領域です。

子どもたちは自分自身で病気を治す強い力を持っています。彼らがその力を発揮することができるように助けるのが私たち小児科医の仕事です。

福井大学医学部小児科は、このような使命感を持ち、子どもたちとその家族のために最新・最高の医療を提供できる優れた小児科臨床医と小児科学研究者を育成することを教育目標としています。

1) 主な研究内容

- ・免疫・アレルギー・感染：
小児アレルギー疾患、原発性免疫不全症、小児膠原病の病因・病態の解明と新規治療法の開発
- ・内分泌・代謝：
内分泌・代謝疾患の遺伝子診断に関する研究、有機酸代謝異常症や脂肪酸酸化異常症の質量分析計による生化学診断、新生児マススクリーニングによる早期発見・早期治療
- ・血液・悪性腫瘍：
血液・悪性腫瘍に対する化学療法、造血幹細胞移植、遺伝子診断や治療効果の評価
- ・未熟児・新生児：
慢性肺疾患の病態生理、病的新生児の水・電解質調節の病態生理、病的未熟児・新生児の障害無き発育の追求
- ・神経・発達・心理：
乳児健診、てんかん、脳性麻痺、発達障がいや学習障害などの診療と治療法の開発
- ・腎・泌尿器：
小児の腎・尿路疾患の早期診断、効果的治療法の開発

2) 教室員の構成

| | | | |
|------|----|-------|----|
| 教授 | 1人 | 医員 | 8人 |
| 講師 | 3人 | 後期研修医 | 2人 |
| 助教 | 5人 | 大学院生 | 5人 |
| 特命助教 | 3人 | | |

教室員募集

定員：特になし 出身大学は問いません。
申込締切：専門医認定機構の指定する締め切りに準ず。
選考方法：面接
説明会：日時、場所は希望者に適宜連絡します。
連絡先：大嶋 勇成
 電話 0776-61-3111 (内線2316)
 e-mail yohshima@u-fukui.ac.jp

福井大学医学部小児科では小児科専門医を目指す若手医師を求めています。
 小児科の優れた臨床医になるか研究者を目指すのか、あるいはその両立を計るのかは皆さん自身で決めてください。我々はその希望が叶うように助力いたします。
 そのために家庭と仕事を両立させて働く女性医師をサポートする体制をとっています。
 少しでも関心がおありの方は、是非一度ご連絡ください。

小児科
 専門医研修
 プログラム

| | | |
|---|--------------------|--|
| 1 | 1～3年目 (卒後3～5年目) | 福井大学医学部附属病院小児科での勤務 ・一般小児病棟 ・総合周産期母子医療センター および 関連病院での勤務 |
| 2 | 卒後6年目 | 小児科学専門医受験 |
| 3 | 4年目以降 (卒後6年目以降) | 臨床診療の継続 または 大学院進学 臨床診療を継続しながら大学院に進学することも可能です。 |

| | | | |
|--------------|-----------------|--------------|-------------|
| 臨床教育週間スケジュール | 入院カンファレンス | ：毎週火曜日 | 13:00～13:30 |
| | 退院カンファレンス | ：毎週火曜日 | 15:00～15:45 |
| | 病棟回診 | ：毎週火曜日 | 13:30～15:00 |
| | 臨床カンファレンス | ：毎週木曜日 | 7:30～8:30 |
| | 文献抄読会 | ：毎週火曜日 | 12:30～13:00 |
| | 症例検討会 | ：第2火曜日 | 19:30～21:00 |
| | 小児科研修医レクチャー | ：第1, 3, 5火曜日 | 19:00～20:00 |
| | 小児神経画像勉強会 | ：第1月曜日 | 18:00～19:00 |
| | 小児脳波勉強会 | ：第3木曜日 | 18:00～19:00 |
| | 小児科救急部合同カンファレンス | ：月1回 | 19:00～20:00 |

「福井大学医学部附属病院小児科専門医研修プログラム」の詳細は、小児科学教室公式ホームページ「研修を希望する皆様へ 専門研修プログラム」からダウンロード可能です。

<研修システムの説明>

卒後初期臨床研修終了後の小児科研修は大学病院での勤務（医員）および関連病院での勤務を通じて行います。大学病院小児科での研修は、研修医一人に対して一人の助教または医員が指導医としてつき、マンツーマンで指導します。多様な症例を少しでも多く経験でき、各指導医の専門性を生かした様々な診療技術を数多く修得できるようにするため、指導医と研修医師の組み合わせを変えるローテーションを組んでいます。

関連病院での研修は指導医と複数の小児科医がスタッフとして勤務している市中病院で行います。大学病院では経験することが少ない疾患について指導医のもと研修し、小児科医として一般診療から高度診療まで経験することができます。関連病院での勤務は各自の希望をもとに研修期間が均等になるよう考慮した上で決定しています。

専門医養成プログラムスタートと同時に日本小児科学会に入会し3年以上の小児科臨床研修を行えば小児科専門医資格取得要件を満たします。小児科専門医試験受験に際しては、日本小児科学会小児科専門医臨床研修手帳の提出、および学会誌等への論文発表が義務づけられており、筆記試験、症例要約評価、面接試験の審査に合格すると専門医の資格を得ることができます。

その後は臨床医、研究者のいずれの道を選択するにしても、更に興味のある領域の専門性を高めることも可能です。また、医員や助教の立場での大学院進学も可能です。臨床医としての専門性を高めながら博士号の取得を目指すこともできます。

行動目標

| | | |
|---|--------------------|---|
| 1 | 1年目 (卒後3年目) | <ul style="list-style-type: none"> ・各年齢における成長発達の特徴を理解し、評価できる ・小児栄養のアセスメントおよび栄養指導ができる ・年齢に伴う薬用量、検査値の変化を理解できる ・心肺蘇生ができる ・脱水症や電解質異常について、病態の診断と体液管理ができる ・検査と処置のための鎮静および麻酔ができる ・腰椎穿刺、骨髄穿刺ができる ・酸素療法、吸入療法ができる ・正常分娩の立ち会いと仮死児の蘇生、新生児搬送ができる ・正常新生児の生理を理解し、光線療法など適切なケアができる ・アナフィラキシーショックの対応ができる ・気管支喘息発生時に重症度の評価、治療が行える ・発疹性疾患の鑑別診断ができる ・感染症予防の適切な処置、予防接種を行える ・腸重積整復など緊急度の高い外科的疾患について、適切な処置ができる ・各月齢や年齢に応じた神経学的診察法を理解し、実施できる ・痙攣重積状態の診断と治療ができる ・乳幼児健康診査の方法を理解し、実施できる |
| 2 | 2～3年目 (卒後4～5年目) | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の心理状態を理解して、育児支援ができる ・乳児健診、学校健診、検尿などの事後措置ができる ・超低出生体重児の管理ができる ・治療用特殊ミルクを適切に使用できる ・先天性心疾患について概略診断と重症度把握およびその管理ができる ・気管支喘息の長期管理ができる ・一般診療の中で代謝・内分泌疾患のスクリーニング、治療の方針を理解している ・抗がん剤の適正な使用と無菌室管理ができる ・誤飲などの事故に対する応急処置を行える ・人工呼吸管理ができる ・頭部、胸腹部超音波検査が実施できる ・発達検査ができ、その評価ができる |

「小児科専門医のアウトカム」と「小児科専門医研修の一般目標」について専門医研修期間中と研修終了時に自己評価を行うとともに、直接指導を受けた指導医の助言を受けます。結果は小児科専門医臨床研修手帳に記録し、小児科専門医試験受験時に提出が求められます。

関連病院等

| | | |
|--------------|----------------|-------------|
| 福井赤十字病院 | 福井県立病院 | 福井県済生会病院 |
| 福井総合病院 | 国立病院機構敦賀医療センター | 国立病院機構あわら病院 |
| 市立敦賀病院 | 杉田玄白記念公立小浜病院 | 福井勝山総合病院 |
| 福井循環器病院 | 福井愛育病院 | 公立丹南病院 |
| 福井県こども療育センター | 穂仁会大滝病院 | |

留学状況

国外12名（アメリカ8名、カナダ2名、ヨーロッパ2名）

国内12名 国立循環器病研究センター
 国立精神神経医療研究センター
 国立成育医療研究センター
 国立がん研究センター中央病院
 神奈川県立こども医療センター
 長野県立こども病院
 大阪府立母子保健総合医療センター
 大阪市立総合医療センター など

認定医・指導医の取得状況

- ・日本小児科学会専門医・指導医
- ・日本アレルギー学会専門医・指導医
- ・日本血液学会専門医
- ・日本臨床腫瘍学会指導医
- ・日本がん治療認定医機構認定医・教育医
- ・Infection Control Doctor (ICD)
- ・日本周産期新生児医学会指導医
- ・日本小児神経学会専門医
- ・日本小児精神神経学会認定医
- ・日本小児科医学会認定「子どもの心」相談医
- ・身体障害者福祉法指定医
- ・臨床遺伝専門医

その他

専門医養成プログラムは卒後初期臨床研修を補うものとして、大学病院での研修（医員）と市中病院での研修を組み合わせ、一般小児科診療、未熟児・新生児医療、小児救急医療を中心に行います。同時に、福井大学医学部小児科は各分野の専門家を擁しており、全ての専門分野で最新・最高レベルの小児医療を研修できます。また、外来・病棟での臨床研修だけではなく、学会発表や論文発表を積極的に行う過程において、症例のまとめ方や、論文の書き方についても学んでいただきます。希望があれば、興味ある症例に関して、研究室での研究にも参加できます。研究の継続を希望する方には、主にアメリカを中心とした海外の研究施設への留学も奨励しています。

“子ども達の生命・健康を守る”という、本当にやりがいのある小児科医の仕事に、私たちと一緒に従事してくれる方の応募を待っています。

小児科学教室公式ホームページへのリンク

<https://www.med.u-fukui.ac.jp/laboratory/pediatrics/>

小児科独自ホームページへのリンク

www.med.u-fukui.ac.jp/SHOUNI/